

平成25年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	5 - 1 - 18
事務事業名	ごみ袋関係経費			担当課係	市民生活課 環境企画・公害担当
総合計画上の位置付け	大項目	2. 「安心」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	③生活環境への阻害要因の減少		内線等	
	小項目	1. 環境への負荷の少ない循環型都市の構築		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	4	衛生費	項	2
	目	4	環境対策総務費	事業	2
開始年度	平成 6	年度	根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の2 小松島市における廃棄物の処理及び清掃に関する条例	

■事務事業の概要（実施内容）	
事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 家庭から出されるごみの分別収集、ごみの減量化、収集時の安全確保等のため市指定ごみ袋を製造する。
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 市指定ごみ袋を利用することにより、ごみの分別収集を推進しリサイクル意識の向上を図るとともに、ごみの減量化意識の向上を図り家庭系ごみの排出抑制に努める。また、袋の厚さを指定することにより収集作業員の収集時の安全を確保する。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 仕様及び在庫数量等を精査し、強度や利便性を維持しつつ、指名競争入札による製造を行う。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 平成6年度から、ごみの分別収集の徹底や収集作業時の安全性も考慮のうえ、市指定ごみ袋が制度化されている。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果		
	ごみ処理実績		1年間に収集・搬入された一般廃棄物の処理量						
	単位		H24	H25	H26	H27		将来目標 (年度：平成)	
t	目標		15,500	15,000	14,800	14,600	14,400 平成28年度		
	実績		15,497	15,089					
	達成度		99.9%	100.6%					
活動実績・参考となる指標	指標名		単位		H24	H25	H26	H27	指標の説明
	燃えるごみ専用袋	計画	枚		1,658,000	1,734,000	1,582,000	1,650,000	製造ごみ袋数
		実績			1,658,000	1,734,000			
	金属・空き缶類	計画	枚		144,000	138,000	140,400	138,000	製造ごみ袋数
		実績			144,000	138,000			
	プラスチック類	計画	枚		536,000	566,000	579,000	560,000	製造ごみ袋数
		実績			536,000	566,000			
	ビン・ガラス類	計画	枚		90,000	96,000	100,000	95,000	製造ごみ袋数
		実績			90,000	96,000			

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		24年度決算	25年度決算	26年度決算	25年度予算	
全体コスト （円）	A 直接事業費	20,529,590	24,086,780	0	25,943,000	
	財源内訳	国県支出金				
		地方債				
		利用者負担	20,529,590	24,086,780		
	B 人件費 ①×②	5,011,423	3,077,188	0		
	職員平均人件費①	25,057,113	15,385,941			
	従事した割合②/人	0.20	0.20			
A + B	25,541,013	27,163,968	0			
単位コスト	活動指標の説明	ごみ袋製造枚数 2,428,000枚	ごみ袋製造枚数 2,534,000枚		備考	
	活動指標1単位当たりコスト	11	11		平成24年4月1日現在 人口40,876人	
	市民一人あたりのコスト	625	667		平成25年4月1日現在 人口40,733人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺状況等や今後の予測) ごみ問題は、排出者、生産者の責任へと移行しつつあり、生産者も廃棄処理の容易な製品やリサイクル可能な製品設計に取り組んでいる。また、国の方向性としては、ごみ処理の広域化や有料化を推進している。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 持ち手付きのごみ袋の試作品を衛生組合に配布し、アンケート調査を行ったところ、概ね良好な意見が多く寄せられた。ただし、袋が長すぎるため底を擦り、袋が破ける等の意見もあったため、多少の改良が必要である。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	指定ごみ袋は、ごみの減量化や分別収集及び収集業務の安全面の確保からも必要性がある
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	一般廃棄物の処理は市町村の責務であり、その収集を安全かつ効率的に行うための指定ごみ袋の製造を市で行っている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	ごみの減量化や分別収集、リサイクル意識の向上等に寄与している。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	家庭ごみは、生活していくうえで否応なしに発生するものであり、その処分に遅れが生じると悪臭等の公害にも発展する原因にもなることから、緊急性が高い。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	環境衛生センターへ1年間に収集・搬入された一般廃棄物の処理量は平成24年度は15,497t、平成25年度は15,089tと約400t減となっている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	国の方向性に従い、ごみ処理の広域化や有料化について関係機関との連携や情報の共有が必要である。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	評価点による判定		判定に至った理由
		評価点	判定	
3	1 拡 充 す る	80 点 以上	2	ごみ減量化意識の向上、家庭ごみの排出抑制、リサイクル推進の啓発等を継続して実施すべき事業である。 指定ごみ袋に関しては、持ち手付きのごみ袋の導入等、市民の方の意見を取り入れた改善を要する。
	2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
	3 改善・効率化し継続	50 ~ 59 点		
	4 見直しの上縮小する	40 ~ 49 点		
	5 終期設定し終了	30 ~ 39 点		
	6 休 止	20 ~ 29 点		
	7 廃 止	19 点 以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	判定説明
3	1 拡 充 す る 2 現状のまま継続する 3 改善・効率化し継続 4 見直しの上縮小する 5 終期設定し終了 6 休 止 7 廃 止	指定ごみ袋制度とすることで、ごみ減量化意識の向上、家庭ごみの排出抑制、リサイクル推進等にも効果があり、事業は継続すべきであると判定するが、ごみ袋の種別に関しては市民の方の意見を取り入れ一部改善を要する。